



要領様式第2号

出張報告届

令和元年12月10日


吹田市議会議長様

会派名 公明党吹田市議会議員団

出張者氏名 浜川 剛 

印

印

印



印

印

印

下記のとおり出張したので届け出ます。

記

出張先	全国町村議員会館	
期間	令和元年12月7日から 月 日まで / 日間 	
出張の成果	別紙のとおり	
備考		認 印
		会派代表者 



〈会派行政視察報告書〉

視察日程：令和元年 12 月 7 日(土) 13:30～15:30

視察先（研修会場）：全国町村議員会館（東京都千代田区一番町 2 5）

視察内容：日本防災士会主催 防災士スキルアップ研修「地域防災と避難行動」参加

視察者：浜川剛

講師：東京大学大学院 准教授 廣井悠 氏

【テーマと主な内容】

大地震が発生すると複合災害になる可能性が高く、避難行動が非常に難しくなります。最近では地域コミュニティの弱体化や居住経験が浅い住民も多いなど共助が機能するかどうか不明な点も多くなっています。また、地域の災害リスクの認識が低い可能性もあります。このような問題意識のもと、住民の避難行動について考えます。

【内容】

- ・避難行動の科学
避難とは
- ・災害時の人間行動
①情報接触②被害予想③避難検討④意思決定⑤時間内に意思決定
- ・避難場所の安全性
避難行動の大原則
「避難する場所」に関する様々な問題点
混同されやすい様々な「避難」
- ・避難経路や手段について
どうやって逃げるかは災害によって大きく異なる
「適切な避難」はすごく難しい
ある災害の教訓
- ・避難訓練は今後、どうやればよいか
避難行動まとめ

【所感】

研修冒頭、廣井先生より「通常 3 時間の講義内容を 90 分程度に集約するので、駆け足や抜粋となるのでご了承下さい。」との話があり、言われる通り、資料も飛ばしたりする駆け足の内容であった。研修後に、しっかりと 3 時間かけて受講してみたいと思える内容ではあった。防災士としてこれまで積み上げてきた知識が、根底から大きく揺り動かされる様々な知識を得る事が出来た。

緊急避難は「避難場所に行く事」ではない。災害を避けて安全な場所に行く事であり、①避難場所への立ち退き避難②近隣の安全な場所への立ち退き避難③屋内安全確保、のすべてが緊急避難であり、住んでいる場所や緊急度、災害によって異なる行動となる事も珍しくない、との学びは、避難＝避難場所への移動、と考えていた自分にとって、大きな気付きを与えてもらった。

一つの災害を想定した訓練をやり続けると、いつの間にかその行動をとる事が正しい事に執着してしまい、災害を避けて安全な場所に行く事という大原則が薄れてしまう事を示される。東京大学大学院の准教授らしく、学生は受験に例えて表現すると理解しやすいようで、「丸暗記はなく、学力をつける」避難訓練と称されている。具体例として、ある学校で休み時間に抜き打ちで避難訓練を実施した所、校庭で遊んでいた児童のほとんどが教室に戻り、机の下に潜りに行ってしまった事を紹介。実際にミャンマーではこれで児童が亡くなっている事実があるとの事で、避難訓練＝命を守る、安全な場所に行くではなく、避難訓練＝机の下に潜る、という単なる行為が染みついてしまう事による、同じ訓練の弊害を示された。この件を考えた時、本市において実施している様々な訓練も、同じ状況に陥っていないか検証の必要を感じた。

令和元年11月定例会において、自治体として早め早めの避難準備情報の発令を提案した。風雨が穏やかなうちに、安全に避難行動をとって頂くために重要であるとの認識からである。しかしながら、大きな災害にならなかった場合、こういった事を繰り返すと結果的に避難準備情報自体を軽視してしまい、防災行動に遅れが生じてしまう可能性を危惧していた。本研修会でも全く同じことが取り上げられており、「オオカミ少年効果」を認識した上で、「人はリスクを軽視する生き物」である事を前提として避難ルール等を考えておかないといけない、と難しさを訴えられ自治体としての判断、行動の難しさを実感した。

本研修において自分自身新たな発見や知識を得られた。これを今後の議会質問等を通じ、本市の防災力、地域防災力の向上にと役立ててまいりたい。

追記

研修時の写真撮影は禁止されたため、講義等の写真は撮っていない。

以上

浜川 剛